



標有板
 色道大鏡卷名人倫門
 同卷十七枚葉列女傳

76
 1557
 1



標有梅、野里梅園叢書の名あり、本書
外題は蜀山人

此一冊は明治四十年秋大改題古書交換會の節
求む

色道大後表第一



名目鈔

第一 人倫門

傾城 傾國ともいふ佛經に淫婦淫女とあるは是
傾城の事なり 婦傾城傾玉といふ出所の橋溪
史よりえたり 李延年が歌ふ北方有佳人絶世而
獨立一顧傾人城再顧傾人國是傾城傾國也
といふ名目のおとらなり 夏の桀王此妹喜殷の紂王
の姐己皆是傾城なり 其外 西施虞氏王昭君揚

是妃がと同一く似せり。我朝よては孝の院
の時時清の女蔵君の前よりひ一者是日本
の女の根徳也。之は祇王祇女佛即前志氣深の
禪師靜号信是白狗子なり。遊女白狗子名目ハ
これれも心なむ。今世よりくんんんん
をその上宮の似せり。はくす。杯の女のた女
と似せり。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。
をちくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。

遊女 室君よりく。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。

伯。三清江にたありて。水清の藤人の女をく。はくす。
はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。
はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。
はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。

それとあり。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。

同音の合。信定

その人。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。
あそひ。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。はくす。

着織物類是首号命婦侍長女已下也下臈諸侍
賀茂日吉社司等女也凡女房上臈小上臈侍外
不定夜御殿朝餉内只中臈度朝餉縁下臈不渡
之界 甲子よりして上臈といひて客色下
と下臈とより所侍常凡より上臈下臈を上位
下位といふらんことし又おりの上臈域を上臈縁
とらんやあるは下臈令地下人の妻女を上臈と
し氣後^後急ある詞なきは俗言をいふらんや
はるは下臈とる致して上臈のや上臈とらん

なり、女とあるは志のあきと女と上臈といひ
圍獄の下と下臈といふは理なきは下臈とい
陽女と女房といひはるは只下臈の面称
として女房といふらん子細あきら
禿 臺も鬘も女く下臈のやつと女房也
ひりの下臈のやつと女の髪と女の髪
下中切あきらと女房とつと女房と
るのく女房の禿の髪と女房と中折入て中
女房と女の髪と女房とつと女房と

名目をうたふて香をさるる

遺女 遺子の事なり遺をいふは傾城

行て其後得るる事度なりわつて今遺を

とふ

香車 同遺子の事なり香車の一節にむかひ

の行て又号を流るは是にがそらして遺る

と香車といふ事なりさへは名目なり

そのはは名こと中を遺をいふ

傾城長 傾城屋の本名なりむらうに

おひく源頼朝卿其後尊氏卿の政を法

異職の目録にも傾成長と入るるれと上畧

て長といふは此事なり所謂大朝の長大儀

乃長なり

香 傾城屋の長名なり此名目の事由をいふ

事なる法書を考へるは所其の

法部よりなりて乃わらるる事なり

後者の謔言といひる事なり新儀

を付んんは名目なり所なりけり

いさなはふとふくしんことばり

太史職

傾固よりつて最おのりすまう職あり

唐位より正議太史通議太史の和朝の正四位の上下

り 尚書より大中太史中太史の從四位の上下

あり中散太史朝議太史の正五位の上下より尚書

了朝請太史朝散太史の從五位の上下より尚書

慈性院殿義政の申樂の能を好まれ給ひて觀世

と太史を稱せしは是れ太史に比するなりやそ外

保生を到令を各太史と稱し保等一府の棟梁を

して今より申り連綿を絶えり 中比出雲巫女

よりの系より身より俊衣を冠て証とて合保羅

とよふとゆへにそは男の侍女あり 刀を横に執る

とをとり俗にこゝろを舞妓とらひたり是よ

り事起りてえ如年中より女身舞妓をとり

そは傾城の能をも從より先佐後過り大

舞舞妓道より名女ありとらふ所あり其中心の

傾城の能の能なりとのをえりて大史の

稱するなり 傾城を太史の号なり

磯 富士を磯と云ふ上界なり、富士は改らるる詞
とむりより人のうへにたはしむるを是と略
しそみしうしよや是に限り人の氣をく
なりて改るる事とわいふらるる事あり、
改らるる事とわいふらるる事あり、
右南道の名目先ねのひの志くし、
左北名目といふ事あり、
こなき心自と云ふは、
を改めて名と云ふ
也

上職 大丈職と云ふ事

三八 大丈と天神との方の職なり、
此を以て絶世と云ふ、
是を同くし、
ふたより、
かたし、
天職 天神の本なり、
此者の名を改めける事、
皆一日此神の職と云ふ事

次々あるもや價取むしむをぬも今以ては
ふ事あるにほやそをたれまははめをさうしす
と古今といひるれを其取とのうして天藏
ふし天神ともあるはあはるる
中通り天藏とさうといふ

園職かこの事天神園れきとくそ原とを
とせを傳ふも人ものたりとくは松梅展れと名
といふありたまはとねとく天神と梅と園と
展とせりたまはとねとく者の價と準として

天神と梅と松とて園と展とつるありす
又曰くはたをかしとく田舎の價よあはると都
乃價よそくいぬわたりとくはと名とす
所詮四名ともありてそを園職とす

半夜 園職乃女と昼夜とけとありのなり
ゆきとも園職の領地とわきてる類といふなり
と半夜女あり兼約をうめり園職のがみなり
昼夜居ゆきして園職といひて今と夜とわ
てあめり半夜のわたりめあり

端女 端女命 馬女命 阿蘇命 阿蘇命
といふけちさうり女のりあり

廣女 同端女のりあり

極契 同端女なり 極契 阿蘇命のりあり

伊豆志のり 風流 漢田十段 家の極契 阿蘇命

川衛 阿蘇命のり 阿蘇命 阿蘇命

者世 阿蘇命のり

華星 同端女の事なり 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命のり 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

けち 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

太鼓 太鼓持 下男 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

首 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命 阿蘇命

末社

同太鼓持の本也。傾城賞の定と本社

そとく太鼓と末社に於ける本

殿

傾城賞^{ケンキョウ}殿^{テン}奉^{ホウ}居^キ等^{トウ}より定とす

同太鼓持乃をこの人のことなるあまの

そとく太鼓持をこの

知者 定の傾城一思の行をさすの度

なり武人なる相とす平生の上

より知者なること

たれをいふこと

大長

傾城賞の上定とす

のこころに尤殿をり

いふこと

物にや其者也南道より列て事とする

者のその印者より心する

粹 南道の功者より本校粹と上界

同太鼓持の子細を大八品に載り

尾智 南道不信の者より尾智に足

あり

忽て誰ぞし申しそこの世せかしくなる
うらやまはしきりし事共実ふめいせいの
をうたれりしをききしに世流流ししを
いひし

見せ男 男と女席の恩を 長あつて今も
あやふさうなまのなほ一様女とて人に
実りし様しきりしにうらやまのいせ
此後ゆあふをききしに世流流ししを
遺りしにうらやまのなほ一様女とて人に

うらやまのいせ

物仕

うらやまのいせ

うらやまのいせ

うらやまのいせ

うらやまのいせ

うらやまのいせ

うらやまのいせ

うらやまのいせ

足ある一 改ある一 改ある一 改ある一
多々あり 曰 後国をきまよわしむる事
ありしをいふ事

河房 戲する人として 女阿婆羅事

もいふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

いふ事ありて 阿房をきまよわしむる事

空をよこす

侍所人よこす

めす不新好具のみたうりて

てて世女子よこす

かへりて

いふこくはくから離

のよこす

あつた

よこす

のよこす

よこす

よこす

新艘

めめ

き

定心

く

つ

し



何れもははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうありし初よりふよふのいふ

吾之 何れもははきむしと定む 此のくはる事の中は

うまゝに事しははるるもいふもいふもいふもいふも

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

何れもははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

さうしてははきむしと定む 此のくはる事の中は

公之る宛なり

春屋 傾城と春とく 宿屋のりよて春
瓦とらふ

宿屋 同春の事之太う ちかむの事
きも春なるひうむてふ 可たれ酒なり

春亭 同春の事なり

春亭 曲部より曲端より 嘉慶の二つより

之の事とて心許とあか 故部のりよて

其ては酒部なり 乃一りよと部とあり

色道大鏡巻第十七

杖乘列女傳

大音 雒陽

合巻 吉野傳

吉野 諱徳子 姓藤原 松田氏 裏祖出 於

俵藤太 秀卿

後 陽成院 御宇 慶長 十一年 丙午 三月

三月生洛陽大佛自七歲之秋被養林
氏與次兵衛之家而後益子肥前禿名
林彌肥前不深憐愍德子而家主勞而
令退之其後不扈從先軍兵于時雲州
大守視之告家主曰童女林彌有奇異
想必發名於日域最可為職依此言
元和五年己未五月九日出世而補太

夫職

于時德子
年十四

名曰吉野自是先有此名

依為高名號之德子性輕爽而智慧甚
深靈艷而化心活然恣氣且下情有夢
耳德子聽香得妙亦常好酒能造真言
語奪人心在郭之內高德威儀其繁數
無指頭語斷舌根而已有大明國吳興
李湘山者夢中會吉野而通言慕這幽

客而以寬永四年丁卯秋八月賦詩而
送扶桑其詩曰

日本曾聞芳野名 夢中髣髴覺猶驚
清容未見恨無極 空向海東數鴈行
又翌年自漢土請德子之壽像我朝之
造客議焉而命畫工令圖畫德子之
目前而寫佳貌畫工尊其暉相而不採

毛延壽之例嘗畫處七影不違顏色
恰如移影鏡悉附軸為七幅而遣九州
異朝高人代之綾羅而歡喜夥况於倭
人乎眾人見金峯山之花者悉松氏安
詠袖振山之月者思德子面影也寬永
第八年未年就鹿客而有新論因茲維

不覺年季同年八月十日 年廿六而還

舊皇

評曰噫呼德之感天下也夫至乎

哉吉野流義名于中華令風雅之

士惺丹心何必在名耶吾國唱名

于異域者載在青史而今不足贅

天正而來羅浮子道春連名大明

活取子道圓擅文詩名海外去野

可與二賢並斬金馳兵惜哉使司馬

氏在必採載女史乞傳

龍門傳

龍門諱賢字姓平三浦氏南都之人也

生寬永三年丙寅春二月小名龜幼時

後父其母誘彼而令嫁他家自幼雅之

時秀才發外利根透眼雖然繼父不歡

武州江戸

勝山傳

勝山諱張子未詳其姓氏武州八王子
之人也正保三年丙戌出世紀伊國風
呂而号勝山勝山性大膽而有餘情活
然而好異風也見聞之葭原而莫不
慕矣承應二年癸巳秋八月山本氏芳

潤需之以補太夫職山之家族究子采
女者遷三浦宅自是勝山控郭中依以
先輩之上職無其色矣張子常不飽酒
猶釋小歌三線也是丹前吉野直傳之
祖也剃結髮興一流行道及身振諸王
用草履所謂勝山館勝山步勝山鼻緒
是也矣粵都琴御有客其貌黑色而粗

有瘡痕法體而齋起初老往辛勤武江
而有暇之時慕山而會之其間攜友重
威儀贈衣服并珍器善畫哉美畫哉雖
然自初會至十一會不解衣帶也素無
簪嫫文于時都巽之客問山曰公是何
背我吾哉山荅曰予洛陽之人有可傳
言不違一言悞達之者為交會法師曰

不及言豈背仰哉山曰誓聞予其時動
天神地祇而誓言今時張字和色而謂
法師曰膝下者洛陽坤郭而會尊子八
千代有其聞即八千代可傳言傳聞尊
子者洛陽第一之佳名而其威影是然
膝下媿希有于世人相也何以親之睦
之哉焉是雖有鄙郭好義客不好賂也

不幾此言通導子法師感動此言諾而
待苦情張子不能辭既從客之意翌日
以消息通客曰契會限時昔也重而不
能逢法師無力上洛而會八十年代麈尾
東郭而傳此言而已分明曆茅二丙申
春告眾人曰予念今年為將可去當郭
不違此諾而同年秋八月的然而退郭

高雄傳

高雄諱娥子氏松岡武州豐嶋郡之人
也小名曰德不扈從先輩明曆元年乙
未夏五月出世而補太夫職鬼子采女
導之娥子性飽花車而貌殊麗氣質弱
細而姿優美也所謂應小所之歌風能
書絕三線小款矣自万治三年庚子臘

月朔且著病床而同月十八日卒無子
時年十九法名號妙信

攝州大坂

小太史傳

小太史諱明子姓橋楠氏寬永九年壬
申二月十日生攝州東成郡母產之時

有光氣室矣父祖出於武臣已來下高

賈經年尚矣屢依家貧而寬永十六年

己卯秋八月為木村又次郎家女子時明

亮名号須美暫從輪子葛城正保二年

乙酉四月朔日出世而補太史職名曰

小太史定子定家道守之明字性聰明絕

倫而賢大廣平也依有才廣氣依心廣

于世高名依名高富貴積身依其身富
能施依能施衆人崇之依人崇其德高
洋洋乎自貴的然覺人之心刺孝之厚
無量勝計矣情觀明子之本性花車風
流之根元而亦不可有例常哀當郭之
鄙風而猶已恨不住帝都也明子心直
而氣浮空艷情飽而蓬矣耀舞遊之扇

被北_二五_一帝之舞妓彈琴松風之響終古
催次能毫雖隨國風器量拔群而翰法
不早又寓意後請滯波雖不求師以舊
歌為師而時々令詠之客採集之入洛
而道將斬明心君士請添削貞德翁啓
之覽之粗有秀逸之和奇可謂奇持其
后雖不為對談德光人為尊師而常贈

漆削之詠草，兵或好茶湯而寄器物且
得毋物致奇也。假令改茶器食及裘具
衣色等，恰莫不中。大有宗南君士之遺
風，或著衣裳作用定遊行法，又令皈依
禪，招少林寺月潭和尚而屢闡法，而以
為參徒。其後謂予曰：儒者不中，我道請
窺南華老人之道。予說道遠接齊物論

之大意，而示莊子之寓言。明子聽此兩
篇，而以遠并天地万物之理，誠不可思
議之遊。君也聽華洛之休想者，明子獨
無不受之。無尊子八十年代，常聽明子之
行，而今感之。會每通明子之客傳言，而
述此潛探郭內，郭外不堪忍。若陛下
一文而已，無念願同君。陛下其傳言及

度度而後時之通書也惜哉念若神鄭
者並尊子而此飛車之兩輪兵兼應三
年申午六月十日申尅退出郭中于時
年廿三

大和傳

大和諱耀子姓不詳寬政十七年庚辰
夏五月生檇州任吉縣木村之家而

自九歲至十二歲從普子靜間亮名号
伏屋靜間自退出相續而從明子中太
丈亮名如元兼應二年癸巳九月朔日
出世而補太丈職于時耀子年十四名曰大鯨
明子小太丈尊之矣耀子性芳艷而面
有微笑相眼粧帶烟而美厲辨辨顏容
勝百子姿貌流窈目古今兵癸巳之重

陽者耀子出也而不過十日然諸耀子
而為特定之客有五輩也詳契物之先後
而阮奉屋與遺女研辨不正相論亦時
明子小太史契先言之人定重陽之客
其次者採園而極之自是在上之貴概
縣城魏過先達也蓋傾國新造而諸客
祿之者唯歸耀子子及成長而益鳴宇
世起諸郭矣高治二年己亥五月廿八
日退郭而寓居大坂五年而居實文三
年癸卯秋九月卒年七已

八千代傳

八千代諱尊子姓藤原波多野氏寬永
十二年乙亥五月朔日生於播州娘路

母夢見懷金寶器而即孕生而為七歲
之時後字父于時兄弟三人母雖養育
之家益貧而難保之因茲正保二年乙

酉于時尊子遣城州即見柳町此處即格福

田理兵衛者家小名石慶安元年成子
春二月出世而為團藏名曰十戶于時年十四

同二年己丑春二月入坤郭而遷奧村

三四郎之家同年三月七日郁子三竺
尊之而再出世神太史職于時年十五改名魏
小太史其後亦改名而号八十年代重職
如元自是其名充天下威勢覆于世魏
然其德才方才智越万人通達諸藝其中
能書而為一流祖次粹絲竹也三味線
名人而又一流之大祖也次妙琴也次

小弓尺八之音聲異乎他也小歌殊勝
而節有風味刺好茶湯而以窺式又觀
風雅而快吟舊歌且携詠諧連歌而作
發句松江氏皇朝聽之萬治三年庚子
夏五月集懷子之時尊子之句撰入彼
集 實文三年癸卯春三月似空軒安
靜撰郡談集尊子之句猶入此集共兼

應三年甲午春三月發起百人戈費自
洛呼講談人而聽之同年六月聽伴物力
物語明曆九年乙未春聽徒然草同三
年丁酉春正月聽古今和歌集讀方全
年自四月上浣聽源氏物語翌年十月
至讀幻卷講人病故懈怠惜哉其後依
舊退郭義而不克志矣尊子性正直而

兼備智仁勇之三德專忠勤柔或時家
有賀儀而家女急作列以先輩座中
恒例也因茲定第一郁子三笠第二英
子野風第三宋子吉高第四尊子八十
代履時尊子分入三笠下野風上而令
着座于時年五爾時座中怨氣家王謂尊子
曰座席違背如何尊子曰座上者不可

寄年積可寄忠功以其意居此家主入
腔子不復言矣隨氏長而盡孝慈母救
昆弟且服血之傾城或有好之萃尊臣之
敬之而導子與重貨施無量金銀也自
己丑至戊戌臘十箇年之間從彼而出
世之遊女七人馨艷之風流傳這一人
莊嚴倍上古所謂天下壯觀也專子敘

者花輪邊梧也此敘聞異域而以織之
金襴之地敘而渡我朝明曆元年乙未
秋九月唐船入肥前州長濱縣諸方高
人舉而寄焉唐人解其織物而戲謂倭
人曰是貴邦第一傾國敘也重足之人
者豈厭價高復速買矣又自朝寔國曉
此敘而盡茶碗而渡日本矣自古至今

本朝之遊女聞異朝而稱之者於六條
德子芳華於坤邪尊子八千代唯此兩
女而已萬治元年戊戌十二月廿九日
廿四歲而退去郭中

初音傳

松山家

初音諱天子姓源澁河氏江州永原之
人也生寬永四年丁卯從前初音塚子

禿名長吉寬永十八年辛巳出在而禱

天藏

干時天子
年十五

取子初音道守之名曰和泉

依貌麗呼其名而正保元年申由三月
廿一日昇進太史藏改名號初音兼應
之始迄雖發其名自明曆之末因德方表
滿雖求珍容續而不會故累年悔之且
身自悲歎退出之遲遲女子信觀世

音因茲祈意趣於觀自在雖然不棄來
尚其寬文元年辛丑八月十日寅刻大
子夢大悲尊座巖上而指文子曰汝無
現世之果福可想後生之需也無同十
六日戒下冠又夢白衣袖女來夫子之
枕上而振素幣曰

憂世乎ウキヨ去天乃知チカリ曾多ツタ能死喜ニキ

此句兩三遍唱而去空同月十八日頻
卒年三十五法名号妙修滅後覽之侍
遺翰在一匣中

藤江傳

藤江諱貴子姓最不賤降誕寬永十二
年乙亥十月母歲其姓氏而遣他家而
又自其家贈郭内小名曰萬不慮從先

輦而慶安元年戊子九月九一日出世
而補大夫職于時貴子年十四峯子高根導定貴
子性堆尋常而容兒潔眼裏麗々有奇
相音聲清清爽馨豁然獨立之心飽花車
而深惡早風在郭之間使不聽高葉沙
汰猶口不語野言所謂蓮者生片泥而
如不染濁臘十有二年之間從貴子而

出世之身女六輦所謂高子小藤

川子鳴瀬 雲子葛城 朗子衣重

波子松山 謙子藤江謙子藤江者貴子友江退出之時昔最爲

出世而昂讓其名矣等也萬治二年己亥六月十日

年世五而退去郭中

葛城傳

葛城諱雲子姓藤原春藤氏平安城之

人也生寬永廿年癸未春二月喪樂從
貴子藤江禿名八孫明曆三年丁酉出
世而補太史職于時雲子
年十五名号葛城貴子
藤江尊之雲子性情潔而心理閑寂也
肅然忘已肅然觀浮也能相全貴子之
心無欲第一而雲子獨淨純也嫌於勇
剛之人招於和直之文名矣雲子常尊法

而敏淨土門萬治三年庚子冬十月求
於師受血脈且勤為念佛五千返日所
作自寬文三年夏五月病全秋九月十
三夜夢中善導和尙現半金色之尊貌
告曰汝今狀離此穢土而生安樂國也
矣雲子夢覺歡喜并虛空而不愁病因
斷藥瘳而以靜修臨終之業同十五日

午尅唱弥陀宝號向西合掌卒于時年
十一葬四條京極大雲院道号明室法
名光雲

初音傳

官清家

初音諱周子姓不詳寬永十七年庚辰
六月三日生洛陽幼稚而後父母他族
之兄無慧之依為貧家不能保之而為

傾國從伯子薄雲禿名号長吉出世兼

應三年申午春二月而補天職于時周子
年十五

伯子薄雲尊公周子性利根英才而面
在愛敬每會客不擇美媿下情無淺深

小款名人而天下之人寄耳目且稱三線
也故鳴於都鄙因茲萬治元年戊戌冬
十月補太夫職自是益盛光雲如復於世

德山高於地寬文三年癸卯十二月四日辛廿四而退曲郭英

和泉傳

和泉諱清子姓藤原結城氏生寬永十八年辛巳五月九日華洛禿名筑紫從前和泉芳子兼應三年甲午秋七月出世而補天職干時清子清子性正直潔白

而容貌險麗也周子初音依為先輩為之下言清子曰出世遲速雖隔月未隔年忠勤不劣周子何故侮予與周子曰夫家族者雖隔日從先輩之例也奈債於我哉否而不止嗚呼論余時家王時審時雙方而以請全言語遂應家王之諫焉萬治二年己亥四月十一日補大夫職

于時清子 舊年冬十月周子初音依在太
年十九

又職重職相今因茲亦兩女諱咸尚矣

寬文三年癸卯五月三日 花齡廿三而

退郭

金太夫傳

金太夫諱麗子其姓氏不詳實永十六
年己卯春三月生於華洛少年之間從

深子初馮亮名号長吉兼應二年癸巳

六月七日出世而補太夫職 于時麗子深
年十五

子初馮道子之麗子性大膽而常好花美

也顏容勝于世解弱前後無及寔夫生

虎值而讚不足 口仰 在其怨郭中之美

容無顏色也座配風流而飲宴有佳興

歡酬闌而刺不飽交會是以諸客莫不

忍辱險子薰者家族而雖為先輩不隨
彼恒諱威勢及累年其薰定事此方不
通金客又遷彼方自薰不通故隔吳越
牧犖之家族分南北而以北者號險子
所南者呼養子所權威俱無增為寬文
元年五月三十日事廿三而退去

